

Monthly Theme

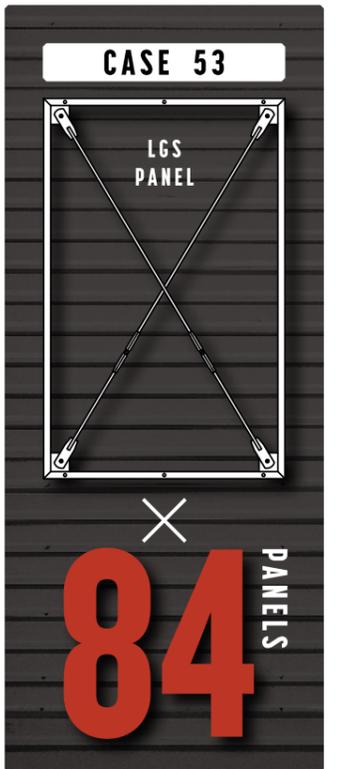
アフターコロナはいよいよ遊動民の時代へ あまりにも楽しい 縄文GLBの暮らし

ガレージ賃貸住宅GLBは遂にデュアルライフエリアにデビューします。
縄文遺跡の聖地、長野県茅野市に建築中の“縄文GLB”
実際例で考える、アフターコロナの実像。

稜線のシルエットが独特の優美さを誇るハケ岳。その山麓地域一帯は、10年ほど前からクリエイティブ系の人達を中心に、移住場所として静かに着目されていた人気エリアです。そして今、テレワークの普及によって、ますます絶好のデュアルライフスポットとしても注目されています。東京から中央高速で2時間余り。従来は、月一度そこで過ごす、別荘と呼ばれていた距離感。しかしテレワークが一般化してからは、週4日を環境の良いリゾート地で仕事しながら過ごすワーケーションが当たり前。実に素晴らしい時代になってきたと思います。

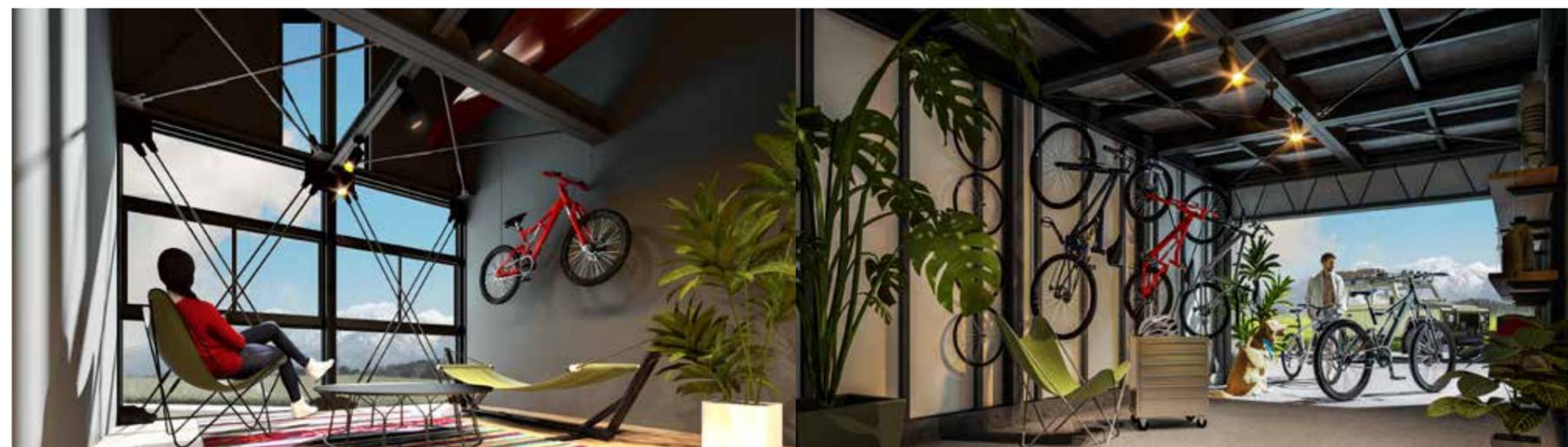
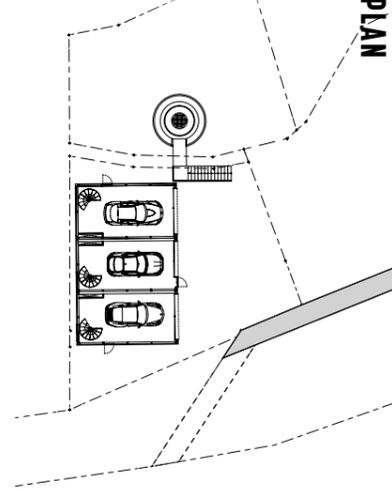
ライフスタイルに親和性が高いのですから、オーナーにとっても経営意欲が維持できるのです。本プロジェクトの計画地、長野県茅野市は、実は、縄文の聖地、すなわち約5000年前、非常に多くの縄文人が豊かな自然とともに生きていた場所です。縄文のビーナスと、仮面の女神。国宝に指定されている、数少ない土偶のうち、何と2体が茅野市で発掘されました。これが、縄文の聖地と呼ばれる所以です。ですから共用スペースにファイアーサークルを設置して、自主管理でいつでもキャンプファイヤーを楽しめるように設定しています。原始的な食事場所ですね。また、自転車フリークにとってもハケ岳界隈はロードレース、MTBともにメッカです。この縄文GLBは今年9月オープン予定で、5月末から賃貸募集を開始予定。今からエンジンをふかしておいてください。

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ



ひな壇状の敷地の道路に接道している部分にGLBを配置。上段の見晴らしの良い場所に、居住者が共用できるファイヤーサークルを設置している全体計画。夕日に赤く染まったハケ岳を見ながら焚火をする快楽はゾクゾクするほどワイルドです。

FLOOR PLAN



スチールサッシの大開口から望むハケ岳連峰の稜線を見ながら、テレワークで仕事ができちゃうという素晴らしい時代。良質な刺激で脳が活性化されたとき、仕事のパフォーマンスは新たな領域に突入。5000年の時の流れも超越し、そして縄文人のスピリットも流入してくるかもしれません。

LIVING

賃貸リゾートハウスとしてのGLBにおいては、ガレージ空間は都会にあるよりさらに、出撃基地=BASE的な意味合いに。ガレージ空間は、単なる自動車の格納庫ではなく、各種アウトドア用ギア類の格納の技と美意識の見せ所。まさにガレージ空間の再定義の極を呈するのです。

GARAGE

What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

www.daytona-house.com

INFORMATION
LDKinc.

代表: 玉田 敦士
www.ldk.co.jp
03-6228-4933

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

Text/Atsushi TAMADA

軽井沢の森に遂に姿を現した TYPE-Fの骨格の威容と浮遊感

本年5月のGW明けの一般公開に向けて、デイトナハウスの軽井沢モデルハウスTYPE-F(改)の建築が快調に進行中です。鉄骨建てが完了し、現在内外装の工事中です。足を踏ん張って、森の中に立っている様はまるで黒いドラゴン。デッキスペースの長さも含めたロングテールなプロポーション(縦横比率)は、気品を感じさせるものです。案外と積雪が多かった今年の軽井沢。雪景色と黒い鉄骨のコントラストは、鉄骨段階で見られない、混じりけのない美しさです。鉄骨だけの段階でも、この存在感。これが完成時には、新緑に彩られた瑞々しい森の中で、別種の美しいコントラストを見せてくれると想像すると、完成がいかに

待ち遠しいですね。ここにミッドセンチュリーデザインを踏襲した内外装仕上げ、ドイツの超高級システムキッチン「ボーゲンポール」やモノトーンを基調にしたデザインユニットバス、スイス製の外部ブラインド「ヴァレーマ」、PS社のラジエーター暖房機など秀逸な逸品が装着されていきます。大きなガラス窓で周囲の自然に溶け込むような内観デザインの豊かさを今から想像してみてください。オープンハウスは5月中旬に予定しています。軽井沢自分の澄み切った空気の中で、小鳥のさえずりを聞きながら、木製デッキでお茶を飲みに来ませんか? 続報、是非注目してください。
daytona-house.com/karuizawamodel/



軽井沢自分の森の雪景色にすくっと立つ、高床式フラットハウスの威容。まるで黒い恐竜のような存在感は予想以上でした。一度この高床式の存在感に触れてしまうと、一般形の平屋では物足りなくなります。地面のアンジュレーションが一層引き立ち、大自然に寄り添うイメージが増幅するのです。



高床式のデッキは2段階に段差をつけて、横方向のプロポーションを調整しながらリズムのあるプランにしています。かのミース・ファンデルローエの名建築「ファンズワース邸」のオマージュになっているのです。長年にわたってファンの多い印象的なカタチです。

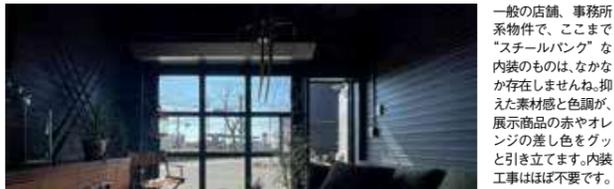
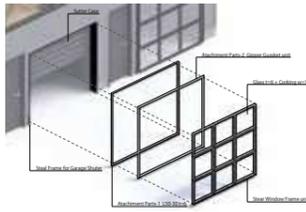


ガレージ空間が店舗やオフィスに! GLB専用アタッチメントの先進性

マットブラックの鉄骨の素材感が他の追随を許さず秀逸なガレージアパートであるGLBは、以前から事務所として、あるいは店舗としての賃貸希望が約3割ほど存在していました。withコロナ時代の「職住一体」のニーズも踏

まえて、専用アタッチメントを開発しておりましたが、このほど遂に完成、リリースいたします。硬質ゴムのジッパーガasketを使用しているシステムですので、脱着が可能。オーナーにとっては、賃貸募集の幅を広げ、安定の賃貸経営の強い味方です。ユーザーにとっては、時代に即応したスタイリッシュな店舗を賃貸住宅感覚で設定できるうれしい仕様なのです。

FIX部分のフレームは構造本体と同一の焼き付け鉄骨。透明部分は強化アクリル板を使用しています。他社商品とは全く異次元の存在感を持つ賃貸物件。ますます全国に増殖中です。



一般の店舗、事務所系物件で、ここまで「スチールバンク」な内装のものは、なかなか存在しませんね。抑えた素材感と色調が、展示商品の赤やオレンジの差し色をグッと引き立てます。内装工事はほぼ不要です。

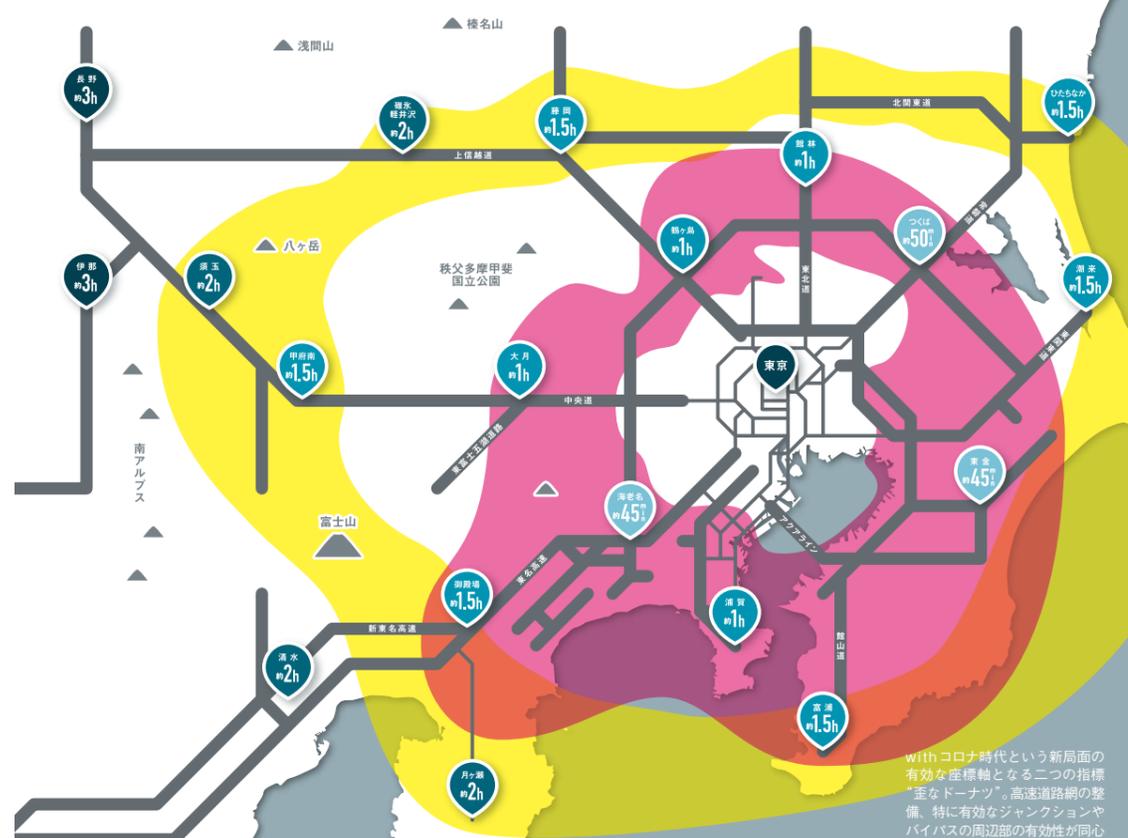
アフターコロナは都市構造が変化する “歪なドーナツ”エリアを狙え!

20世紀の鉄道インフラが作った都市構造。それが情報インフラ優位の時代には激変する。
コロナパンニックが今、私たちにそれを教えてくれているのです。

コロナで気がついた時代の変化
中心優位社会からネットワーク社会へ
今にして思えば、20世紀は交通インフラ全盛の時代でありました。世界の中心、日本の中心、各都道府県の中心など、情報や価値の集中する「中心」が設定され、その「中心」からの距離に応じて、土地の価格が序列化されている。中心からは特に鉄道インフラが放射状に伸び、周辺から中心へと人を運ぶ。それが日常的に繰り返される時代が100年以上、つい最近まで続いていました。一方21世紀は情報インフラの時代と位置付けられています。とはいえず約20年間、特に我がニッポンにおいては目に見える激しい変化は感じられませんでした。今回のコロナパンニックは、実は着々と進んでいた大きな時代の変化を一気に進める。加速主義、とも言える効果をもたらしました。その結果、中心から放射状に伸びていた交通網の意味は半減し、すべてが情報ネットワークの網の目に位置づけられるような社会へと一気に変化しています。テレワークの急速な普及は、都市の構造を今後大きく変えていく。今それが始まったばかりなのです。

変化なのです。つい最近も某大手広告代理店や老舗の民放TV局が、都心の本社ビルを放棄するという話がかつていきます。中心と周辺の差異が無意味化し、相対的には中心部の価値が低下していきます。都市の構造と生活のスタイルも変化した。例えば、デイトナハウスのガレージ賃貸GLBの建築を考えると、適正な立地を地図上にプロットしてみます。中心部からの所要時間が1〜1.5時間で、土地の坪単価が20万円以下の場所を赤く染めてみます。すると、図のような歪なドーナツ形状を描きます。GLBは、移動手段であるクルマやバイクを格納できる住居形式なので、駅から近い場所にある必要がなく、鉄道インフラの序列に制約を受けません。居住者は自ら移動することをお好む人々、遊牧民だからです。移動手段の格納できるニースはアフターコロナでむしろ高まりますので、周辺部でも家賃はさほど下落しません。土地を安く仕入れて下落しない家賃を確保できる場所。ここが賃貸事業としてのGLBの適正な立地となるわけです。居住者にとっても過密な場所、不当に高い家賃や駐車場代を支払う必要がなく、テレワークを併用しながら必要な時に愛機で出撃できる場所。GLBになりえるので、十分理にかなっています。ちなみに環境の良い風光明媚な場所も含めた2拠点生活(デュアルライフ)のニースも高まります。所要時間が中心から2時間以内の場所を黄色くプロットしました。軽井沢、八ヶ岳、山中湖、那須、

外房などがこの黄色のエリア上に並びます。従来、別荘地、と呼ばれていたエリアです。ここでは、高床式など環境に溶け込んで、大自然に寄り添うような建築形式が望ましい。この二種類の歪なドーナツから、今後、豊かなライフスタイルが立ち上がってくることは間違いありません。



withコロナ時代という新局の有効な座標軸となる二つの指標「歪なドーナツ」。高速道路の整備、特に有効なジャンクションやバイパスの周辺部の有効性が同心円を歪な形状に変形。同様のドーナツ指標は、関西圏、名古屋圏、福岡圏でも作り出される予定です。

